



グラウンドで戦うナインに拍手を送る  
中村大悟=24日、甲子園

### 光星 もう一人の主将

## 中村大悟 アルプスからナイン鼓舞

高校球児の誰もが夢見る甲子園。センバツの晴れ舞台で八戸学院光星が14年ぶりに8強入りを果たした。1回戦に続き、24日の2回戦でも粘り強い投球でチームをけん引したのはエースで主将の北口晃大。だが、光星の屋台骨を支えるのは彼一人ではない。ダブルキャプテンの中村大悟。

グラウンドに姿はなくてもアルプスからパワーを送る光星のキーマンだ。

新3年生の中村は1年時から学年のまとめ役で、野球部寮の寮長などを担った。2年春には青森県2を脅けるなど、主将候補に挙げられたが、新チームが発足する頃、思うように体が動かさなくなる運動障

## アルプスからナイン鼓舞

害「アップス」を発症し、ボールを投げられなくなった。そこで仲井宗基監督の勧めもあり、北口と共にナインを率いることになった。チームで初めてとなるダブルキャプテン体制。中村は「北口はプレーで引く張る存在。自分は選手一人一人と積極的にコミュニケーションを取り、時には喜んで厳しい役回りを買ってきた」と語る。

24日は応援団長としてアルプスの最前列に立ち、ひときり大きな声援を送った中村。勝利が決まった瞬間「よしやー」「ナイスゲーム」と声を弾ませ、仲間とハイタッチを交わしながら歓喜の輪をつくった。中村は「みんなよくやっていた。本当に頼もしい」とねぎらいつつ、「ヒット8本はまだ足りないの、次の試合ではもっともっと打ってほしい」とさらなる奮起に期待を込めた。

(千葉達也)

## 好ゲーム 勝利に沸く 留守部隊67人が応援



勝利に沸く生徒たち=24日、八戸学院光星高

八戸学院光星高では24日、運動部の生徒67人が校内で遊覧学園との2回戦を観戦。1点を争う好ゲームを制し、2012年以來の8強入りを果たしたナインに、会場からは惜しみない拍手が送られた。

この日は女子バスケットボール部、レスリング部、柔道部、陸上競走部、ソフトテニス部の生徒が参加した。試合は両者一歩も譲らないシーソーゲーム。生徒たちは試合の行方を固唾を飲

んで見守った。八回二死一、二塁、一番野手闘争が左前に勝ち越し適時打を放つと、会場は大盛り上がり。生徒たちは歓声を上げながらメガホンを打ち鳴らした。

女子バスケットボール部主将の福田幸菜さん(17)は「(光星ナインが)たくさん打っていて、すごくカッコ良かった。きょうみたいになくさん打つ試合をして、次も勝ってほしい」と話した。

(向屋敏朗)